

ボールの特性レポート

BALL REPORT



| | | | | | |
|------|---------|-----|-------|-----------------------|-----------|
| ボール名 | ラティチュード | 投球者 | 徳江 和則 | センター | 平和島スターボウル |
| RG | 2.511 | △RG | 0.045 | ●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール | |

テストボール：ラティチュード

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

比較対照ボール：トライトン・エリート

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 インチ

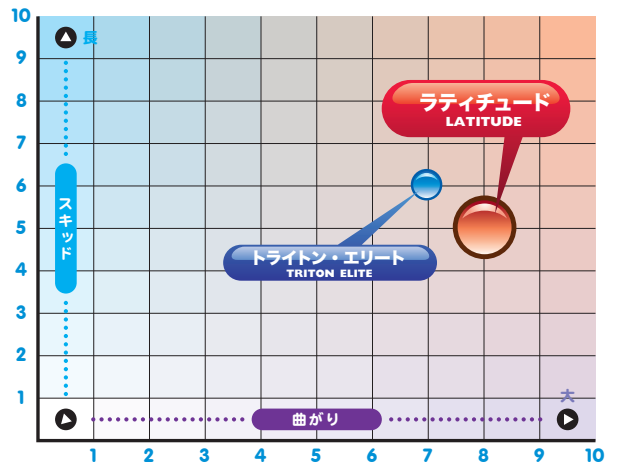
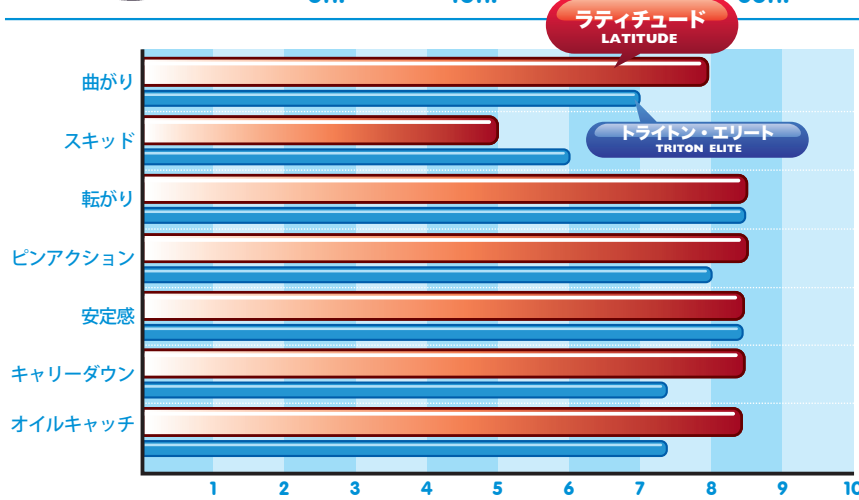
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- パフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

TRACK社でPROOFと同じ今回キャッチ系を担ったボールがこのLATITUDE。パフォーマンス領域はミディアムオイル対応で、コアはTriton EliteのMC2コアをModifyしました。現行のEBIカバーのQR-7 SolidからEBIのウレタンとブランチウィックのケミカルを混入させた新しいQR-8 Solidへと変わりましたが、全く別物のボールに進化したようなイメージに仕上がったと思います。領域的には発表はMid Performance領域なのですが、Midでまがりのイメージが出ていたTriton Eliteのイメージが一変し、先でシャープに切れるイメージのボールに仕上がったのがLATITUDEです。実際に投球してみると3000Siaairというブランチウィックのマイクロパッド仕上げですが、パワーがバックエンドに凝縮されており、それでいて手前のオイルにも負けないキャッチ力も出ているという、Mid Performance領域から少し上の領域ではないかと思うぐらい、この領域では贅沢に仕上げられている感じもありますし、今までのMC2コアのイメージがかなり変わったというのが印象です。もちろんカバーが変わればパフォーマンスも変わるのは必然ですが、キャッチを活かしながらこれだけバックエンドの動きを重視できることは今までのEBIではできなかったことでもあり、今回ブランチウィックにEBIの技術者が招集され、ブランチウィックのTechnologyと融合できたことは革新的とも言えます。そしてこれから益々さらなるパフォーマンスが期待できるブランドと断言できます。発売まで短期間で発売にこれだけのパフォーマンスを用意できる底力と、世界シェアNo1を目指すグループの結集力がパフォーマンスとして表れていると思います。EBIでは出ない、またブランチウィックだけでも出ないパフォーマンスがLATITUDEで出ています。まずは技術が融合されたカバーの性能がどれほど変わったのか、知るところからでしょう。

特記事項

Triton Eliteイメージとはまた違った、バックエンドでエネルギーが一気にできるシャープなリアクションが特徴です。ミディアムから少し上の領域で、ラインを攻められるボールです。